

重点施策6 充実した人生を送るための生涯学習の振興

【施策方針】

市教育委員会教育基本方針に基づき、生涯学習の観点に立ち生涯学習推進体制の整備に努め、市民の自発的な学習意欲の高揚と多様化・高度化する学習要求に対応する。

また、生涯を通して充実した学習活動を展開できるよう必要に応じて学習の機会・学習の場を提供するとともに、支援・協力する。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 連合婦人会
- ② 連合青年団
- ③ P T A連合会
- ④ 生涯学習支援ネットワークの充実

(2) 施策・事業の実施状況

① 連合婦人会

- 高齢化社会を迎え、女性の学習への在り方を考え、地位の向上に努めた。
- 青少年の健全育成を図るため、明るい家庭、社会づくりと環境の浄化に努めた。
- 各種団体との連携を密にし、女性のふれあいの場、活動の輪を広げるように努めた。
 - ・ 令和4年度は、やわたはま国際MTBレースが3年ぶりに開催され、ファミリーイベント「グルメ横丁」で出店した八幡浜ちゃんぽんが来場者に好評であった。一方、市民健康マラソンでもコンソメスープを作って参加者に振舞う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、中止となり実施できなかった。
 - ・ 新型コロナワクチンの行き渡りや感染状況を見極めた対策を講じ、ウィズコロナを見据えた事業の推進に努めた中、10月は保内文化のつどいへ参加し、福祉施設訪問を年5回行うなど、積極的に自主的活動を推進し、会長のもと3地区間の協力・交流を図り、明るい地域づくりに貢献することができた。

② 連合青年団

- 公民館ほか各種団体との連携を図り、地域の活性化に努めた。
- スポーツ活動・ボランティア活動等を通して、団員の団結力を強めるとともに、地域において社会教育を推進する人材育成に努めた。
 - ・ 令和4年度は、やわたはま国際MTBレースが3年ぶりに開催され、多くの団員がボランティアスタッフとして参加し大会の成功に貢献することができた。
 - ・ 夏のスポーツ大会を秋に延期して開催(10/30)したほか、同日は、双岩地区公民館主催のバンブーアート点灯祭でやきそば出店の依頼を受け、団員間の親睦を深めつつ、地域との連携に貢献するための団結の意識を確認することができた。さらに、成人式

から名称変更した二十歳のつどいでは、人生の節目を祝い励ますアトラクションを実施し好評を得た。

③ P T A 連合会

- 会員の質的な充実を図るため、P T A 研修活動(講演会の実施)の充実に努めた。
- 地域の良さを生かしたP T A活動の推進に努めた。
- 教育諸条件の整備充実に努めた。
 - ・ 役員合同研修会(6/25)では宇都宮民氏を招いて、「コミュニケーションで大切なこと」と題して講演いただいた。県委託事業の八幡浜市「子ども読書活動推進事業」(11/26)を開催し、保内図書館司書の田村佳代氏に講演いただき、さらに、読み語りの実演も行っていただいた。市P T A研究大会(1/22)については、開催直前に、講師がコロナに感染し、開催が危ぶまれたが、代理の講師をお招きして、何とか3年ぶりに開催することができた。
 - ・ 年4回開講のP T A大学は、小学1年生を持つ保護者を対象として、講話や体験学習を通して、子育ての不安や悩みを解消したり、自信を深めたりするとともに、学校の枠を超えた会員間の交流を図る機会となる活動である。新型コロナウイルス感染防止の対策をとりながら、通常の5月スタート開催とすることができた。通常の開催は3年ぶりで、充実した研修ができた。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の心配はあったが、徐々に事業を再開し、コロナ下前の活動に近づけた、明るい兆しが見えた一年となった。

④ 生涯学習支援ネットワークの充実

- 「浜っ子人材銀行」と「浜っ子サークル銀行」の発行(隔年更新)をしており、地区公民館をはじめ関係機関への配布を行うとともに、八幡浜市公式ホームページにも掲載し、広く市民に周知するなど、学習活動の支援を行った。

【事務事業点検評価委員意見】

- 連合婦人会では、3年ぶりに開催された「やわたはま国際MTBレース」で、ファミリーイベント「グルメ横丁」に出店した。メニューの八幡浜ちゃんぽんが好評で、大勢の人に利用してもらった。市民健康マラソンでは、コンソメスープを振る舞う予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため、レースが中止となり残念であった。

ウィズコロナを見据えた事業の推進に努めた中、10月は保内文化のつどいへ参加し、福祉施設訪問は5回行うことができた。3地区間の協力・交流を図り、明るい地域づくりに貢献することができたことは、嬉しいことである。

- 連合青年団でも、やわたはま国際MTBレースに、多くの団員がボランティアスタッフとして参加し大会の成功に貢献することができた。また、夏のスポーツ大会を秋に延期して開催(10/30)し、同日は、双岩地区公民館主催のバンブーアート点灯祭で、地域との連携に貢献することができた。さらには、二十歳のつどいでは、人生の節目を祝い励ますアトラクションを実施し好評を得た。若者として、市の様々な行事に貢献していることが素晴らしい。
- P T A連合会では、新型コロナウイルス感染症拡大の様子を見ながら、事業を再開し、コ

ロナ下前の活動に近づけることができた。

役員合同研修会(6/25)では宇都宮民氏に講演をしていただき、県委託事業の八幡浜市「子ども読書活動推進事業」(11/26)では、保内図書館司書の田村佳代氏に講演をしていただいた。

市PTA研究大会(1/22)については、講師がコロナに感染し、開催が危ぶまれたにも関わらず、代理の講師により3年ぶりに開催できたことが素晴らしかった。

PTA大学でも、3年ぶりに通常の開催ができ、充実した研修ができたことは、参加者にとって有意義なことである。

- 「浜っ子人材銀行」と「浜っ子サークル銀行」の発行により、豊かな人材による研修の機会が広がっていくものと思われる。

【自己評価】

- 全国的に婦人会、青年団の会員数が減少している中、本市においても会員数をできるだけ維持し地域貢献を目指した活動を継続している。特に、二十歳のつどいでは、青年団がアトラクションを企画し、人生の節目を迎えた成年たちをお祝いし会場を盛り上げ、やわたはま国際MTBレースでは、婦人会がちゃんぽんを出店し来場者をおもてなしする姿が印象的であった。引き続き、団体の特徴や会員の個性を生かした多種多様な活動を企画PRするほか、県内市町の青年・婦人団体との交流を企画し、会員数の増加・団体の活性化に努めたい。

- PTA活動においては、市PTA連合会活動方針に基づき、児童生徒の健全育成、会員の意識と連帯感の向上、人権教育の充実等の取組を計画した。新型コロナウイルス感染症拡大の心配はあったが、事務局と本部役員が協議を重ね、徐々に通常の形での事業を再開し、コロナ下前の活動に近づけた、明るい兆しが見えた一年となった。次年度以降、アフターコロナを見据え、学校の枠を超えた会員間の交流及び研修活動の充実に取り組みたい。

市PTA連合会事務局として、引き続き、市PTA連合会本部役員の意向や単位PTAの意見を十分に生かした運営・改善に努めていきたい。

- 新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えない中、地区公民館での生涯学習推進事業や小学校PTAでの愛護班事業など、感染状況を見極め、かつ対策を講じ計画的に事業を推進していただいた。学校・家庭・地域が連携した成果であった。

少子・高齢化、また、多様・高度化する社会の中で、公民館ほか、各社会教育施設を生涯学習活動の拠点として、市民の自発的な学習意欲の高揚に対応できるよう努めたい。そのためのツールとして、「浜っ子人材銀行」「浜っ子サークル銀行」等を活用した生涯学習・生涯スポーツに関する情報発信を継続し、市民のニーズに応え、生涯学習の推進、振興を図りたい。